

岡 谷

九条の会

2007・8・20

事務局 岡谷市長地片町町2-5-5
TEL.FAX 0266・28・9230

ニュース No.21

活動の報告

8月6日(月)核兵器廃絶岡谷平和の集い

快晴の夏空に、長地小、小井川小、鼈太鼓等70名の「諏訪湖ばやし」「勇み駒」の揃い打ちの太鼓の音が響き、集まった父母、九条の会会員、一般の方など50名とともに、皆で「ふるさと」を合唱し、8時15分1分間のダイインをし、一同晴れ晴れとした気分で散会した。林淳子さんのソロ「一本の鉛筆」も見事でした。

広島市長からのメッセージ

「核兵器廃絶岡谷平和の集い」が開催されるに当たり、メッセージをお送りいたします。

ヒロシマは、人類最初の被爆体験を原点に、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けてきました。しかし、世界各地で憎しみと暴力、報復の連鎖が断ち切られないまま、今なお地球上には大量の核兵器が存在し、核兵器が使用される可能性さえ高まっています。このため、広島市は、世界の1600を超える都市が加盟する平和市長会議と共に、2020年までの核兵器廃絶を目指す「2020ビジョン」に取り組み、「核兵器の使用・威嚇は、一般的に国際法に反する」とした国際司法裁判所の勧告的意見から10周年を迎えた昨年からは、核軍縮に向けた「誠実な交渉義務」を果すよう求めるキャンペーン(Good Faith Challenge)を展開しています。さらに核保有国に対して都市を核攻撃の目標にしないよう求める「都市を攻撃目標にするな(Cities Are Not Target)プロジェクト」に取り組んでいます。

人類の未来を決定するのは、この地球に生きる一人一人の市民です。こうした意味から平和を願う「核兵器廃絶岡谷平和の集い」が開催されますことは誠に意義深く、その取組みに対し深く敬意を表します。今後とも、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現のため、私たちと共に力を尽くし、行動して下さることを心から期待いたします。

終わりに、「核兵器廃絶岡谷平和の集い」の御成功と御参加の皆様のご健康と御多幸をお祈りいたします。

平成19年(2007年)8月6日

広島市長 秋葉 忠利

8月15日(水)「九条署名」行動日

諏訪湖花火の見物客で賑わう岡谷駅前、13:00~15:00 街頭署名。事務局員、代表者、一般会員計17名が、炎天下汗だくで通行人に呼び掛けた。若い人達の反応も意外に好意的で、182筆が集まった。宣伝カーの呼びかけも好評だった。

- ◎ 会員の須沢誠治さんが、8月6日逝去され、「平和を愛した父の志」ということで、喪主の陽一さんより多額の遺志金をいただきました。ありがとうございます。車椅子で各種会合に出てこられた姿が目には浮かびます。ご冥福を祈ります。
- ◎ 「岡谷九条の会」のホームページが再開しました。アクセスしてください。

<http://www.lcv.ne.jp/~okaya9jo/home.html>

- ◎ 「銃口」(4000円)「日本の青空」チケットあり。周囲の方に勧めて下さい。

今後の予定

{ 8月31日(金) 午後 6:30~ } 「日本の青空」
{ 9月 1日(土) 午前 10:00~ } 上映会

下諏訪総合文化センター 小ホール 入場料 1,200円

9月 9日(日) 午前 9時 9分 ピースウオーク

「9条を考える道南の会」(北海道)の呼びかけにちやうじて、9の数の並ぶこの日この時にイベントをしようということで、本会としては初めてピースウオークを計画しました。9時、釜口水門集合、簡単な集会のあとぶらぶらと塚間川まで湖畔公園を歩きます。ハンカチかなにか黄色のものを身につけて下さい。小旗、プラカードなど工夫していただいても結構です。初秋の湖畔散策。楽しくやりましょう。

会員からのメッセージ

下島 禎(長地源2 本会代表者)

第二次世界大戦で、日本は中国をはじめとするアジアの諸国に侵略戦争をしかけました。中国の兵士は一人も日本領土には入ってこなかったのに、日本は100万人もの軍隊を大陸に送り込み、おびただしい数のアジアの人たちの命を奪いました。この事実をみてもこの戦いが侵略戦争であったことは明白です。この侵略戦争の反省と、もう戦争はイヤだという、平和を希求する日本国民の気持ちが一つになって憲法九条がうまれました。その九条のおかげで、天皇制を残したままで、日本は国際社会に復帰できたし、アジアの人々にも受け入れられてきました。

この程度の歴史認識もないままに、今もし九条をなくせば、世界の人々、とりわけ中国や朝鮮半島の人々が、どんなにひどい反応をするかは明らかです。そのすべての責任は日本にあると言わざるをえません。

日本はアジアの中の一国です。いまのようなアメリカ一辺倒の国のあり様を改め、アジアの人々と仲良くすることが、なによりも大切です。「軍備を持たずにいて、北朝鮮が攻めてきたらどうする」といった幼稚な議論に、いつまでも終始するのではなくて、日本が近隣諸国との信頼関係を築くにはどうしたらよいか、アジアに平和を築く議論を深めることが、今求められています。そのためにも憲法九条は必要なのです。